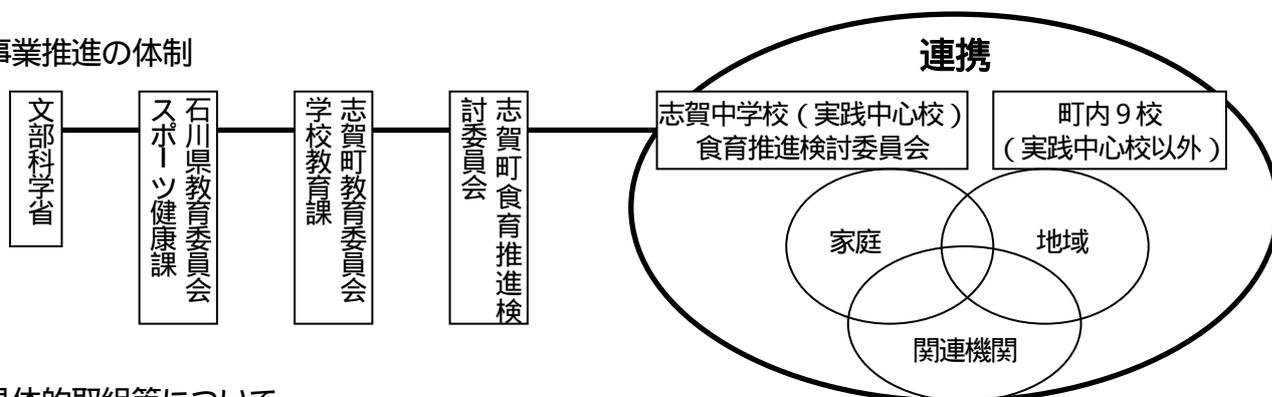


栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	石川県
推進地域名	志賀町

1. 事業推進の体制



2. 具体的取組等について

研究主題 望ましい食習慣や正しい知識を身につけ、食に関する自己管理能力の育成を図る

志賀町は、中学校2校、小学校8校の配送校を持つ共同調理場方式の給食を実施している。食に関する指導は、学校と連携して取り組んできた。その結果、志賀町全体として、給食の残食率の低下に至った。

しかし、一方では、偏食などの食生活の乱れや食べ物に感謝することに繋がっていないことや、成長期真っただ中の子どもの時期の食生活の大切さが理解されておらず、一層の啓発が求められる。

そこで、学校教育における食に関するさらなる充実を図るとともに、家庭や地域、関連機関との連携を一層強め、協力体制を整えることにより、心身共に健やかな子どもの育成を図りたい。

テーマ1 実践中心校での取組（志賀中学校）

(1) 各教科等における生活習慣・食生活に関する指導

食に関する全体計画・年間指導計画の作成

授業における指導

ア 第一学年 学級活動

「朝ごはんプログラム」を参考に実施した。

家庭への波及をねらい、お家の人の感想も寄せてもらった。

イ 第一学年 技術・家庭科

「朝ごはんプログラム」に沿って実施

給食委員会が実施した生活習慣調査を紹介

家庭への波及をねらい、考えたメニューの実施を夏休みの課題とした。

ウ 第一学年 美術科

「和菓子の制作」

エ 総合的な学習の時間

・ 第一学年「カルシウムについて」

・ 第二学年「朝食と野菜」

・ 第三学年「生活習慣病と食生活」

給食時間における指導

地場産物を使用した日には、啓発資料を使って、学級担任が指導

終礼時間における時間

ア 朝ごはんについては、テスト、体育祭、チャレンジウォーク前など、機会を捉えながら繰り返し指導

イ 牛乳飲用については、9～10月中に指導



全校集会

- ア 学校給食栄養報告の結果を知らせる。終礼時に振り返りのアンケートの実施
アンケート結果は、一覧にし、職員会で配布し、全職員の共通理解が得られるようにした。
- イ アンケートには、コメントを加え、裏面には、啓発資料を印刷し、
通知簿渡しに直接保護者に配布
- ウ 要約したものを掲示

養護教諭との連携

- ア アンケート結果一覧の活用
 - イ 体育祭、チャレンジウォーク前の食指導
 - ウ 身体計測時間に、生活習慣病と食生活について指導
- 美術部における指導
卒業お祝いケーキの校章の作成



校章の作成



全校集会後の掲示

(1) 生徒会活動での取組

生徒会執行部

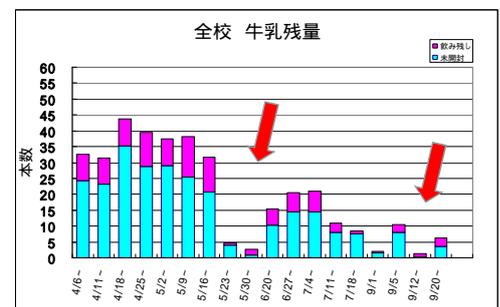
「繋がれ志賀中大作戦」の展開

- ア 牛乳を飲もう
 - イ 給食準備を早くしよう
- 保健委員会
- ア 衛生検査に、朝ごはんの項目を追加
 - イ 委員会だよりで、「朝食3品を呼びかける」



給食委員会

- ア 給食実態アンケート
 - イ 給食残量調査
 - ウ 標語募集
- 図書委員会
食に関する書物の紹介



(2) 家庭との連携

給食試食会及び食育講演会

「食育シート」の作成

- ア 新一年生「パワーアップ朝ごはん」
- イ 全員「骨・骨・貯めるコツ」

PTA 保体厚生部
「食育シート」作成



テーマ2 実践中心校以外での取組

(1) 町内10校における共通した取組

教科等における指導

年度当初の校長会で、石川県教育委員会が作成した「朝ごはんプログラム」を配布し、年間指導計画に載せてもらえるように依頼

給食時間における指導

給食時間における食に関する指導計画を年度当初の校長会で提案

前日までに、指導の内容、振り返りのアンケートを配布

指導後のアンケートには、コメントを記入し、集計を添えて、学校へ返却

家庭へは、内容の集約したお便りを配布

指導資料の配布

年度当初の校長会で提案し、承認を得る。



全校集会で残量調査結果を
基に指導（富来中）

(2) 富来中学校・堀松小学校・土田小学校・富来小学校・下甘田小学校での取組

- ① 全校集会で実施・・・富来中学校
- ② 資料作成や教材の提供・・・堀松小学校第2学年
- ③ T・T授業の実施・・・土田小学校第1学年・富来小学校第3学年・下甘田小学校第1学年・第2学年・第3学年第5学年



第2学年学級活動
(堀松小)

(3) 教育研究会 学校給食部会の取組

- ① 志賀町教育研究会 学校給食部会
 - ア 給食時間における学年に応じた指導内容や実施時期を協議
 - イ 全体計画や月毎指導計画を教科別に学校に振り分けて作成
 - ウ 研究授業の実施
「朝ごはんプログラム」に沿った授業を実施し、町内の学校への波及をねらった。(小学校第4学年・体育(保健領域))
 - エ 指導資料の作成
全町内の学校で実施できるように、資料を作成
- ② 羽咋郡教育研究会 学校給食部会
「朝ごはんプログラム」に沿った授業を実施し、郡内の学校への波及をねらった。(中学校第1学年・技術・家庭科(家庭分野))



教科	学校
社会・音楽	上熊野
生活	土田
図工・家庭	志加浦
保健体育	加茂・下甘田
理科	富来
国語	高浜
算数	堀松

(4) 家庭・地域・関連機関との連携

- ① 家庭・地域
 - ア 給食だより、ホームページ、食育だより「すくすく」を発行



給食に込められている思いや児童生徒、調理場の様子を載せている。



- イ 生産者との交流
地場産物の使用時には、生産者取材し、指導資料を作成
- ウ 給食試食会及び食育講演会



- ② 関連機関
 - ア 農林水産課・JA志賀
・農作物

特産物である「ころ柿」は、JA志賀を介して、給食に使用しやすいように、ころ柿組合に加工を依頼



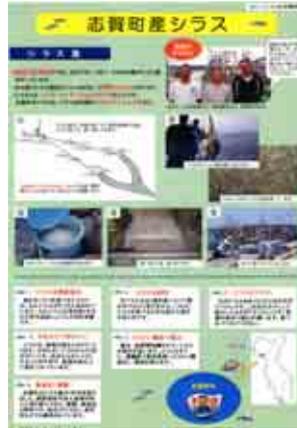
- ・水産物
学校給食に地場産物の魚を導入するために協議
県農林水産課、町農林水産課、県漁業協同組合、県漁業協同組合西海支所、学校給食共同調理場が一堂に会した。



2回目は、水産加工業者、魚小売業者も加わった。

・指導資料作成

県農林水産課、県漁業協同組合の協力を得た。



「食育シート」の作成

イ 健康福祉課

- ・志賀町食育推進基本計画の作成に参加
- ・食生活改善協会、食育コーディネーターに、「食育シート」作成を依頼
- ・「健康フェア」に参加

町民に、給食への理解と、給食を通して食への啓発を図った。



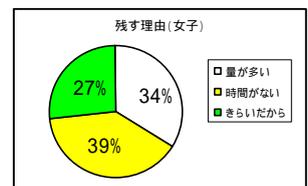
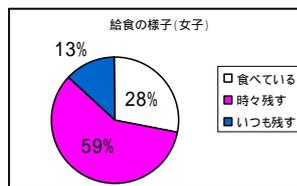
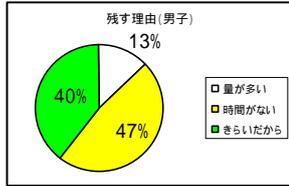
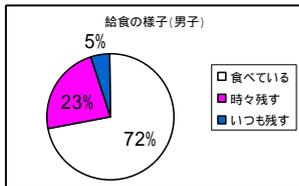
「健康フェア」の様子

テーマ1～3に共通する具体的計画

(1) 実態調査

ア 食育アンケートの実施(志賀中学校)

この結果から、食生活の乱れや大切さが理解されていないことがわかる。



イ 給食残量

平成22年度は、主食が8.2%, 主菜, 5.4%, 副菜, 9.6%, 汁物・煮物は, 10.5%であった。

(2) 家庭・地域への啓発

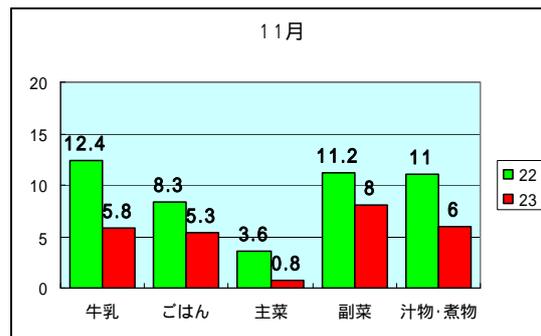
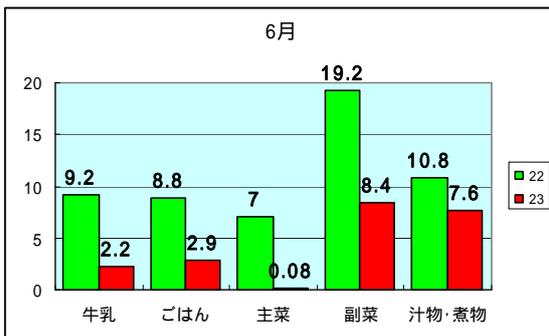
ア 朝ごはん, 牛乳飲用, 野菜やおやつについて指導

イ 食育シート「骨・骨・貯めるコツ」を2学期末に, 全児童生徒へ配布

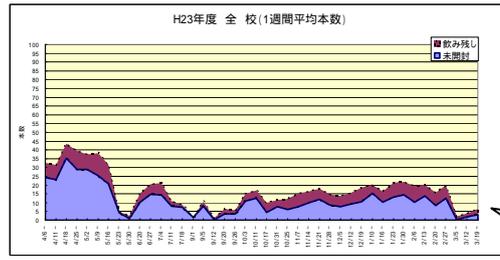
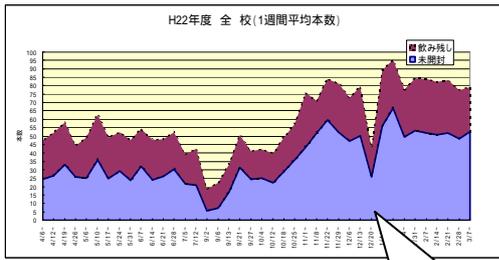
数字で変化のあった事項について

(1) 残食率の低下

実践中心校においては、平成22年度と比較して、平成23年度の6月・11月調査の残量の減少が見られた。



牛乳の1日の残量は、平成22年度は、未開封と飲み残しを合計して、約50本あったが、今年度は約20本の残量になった。

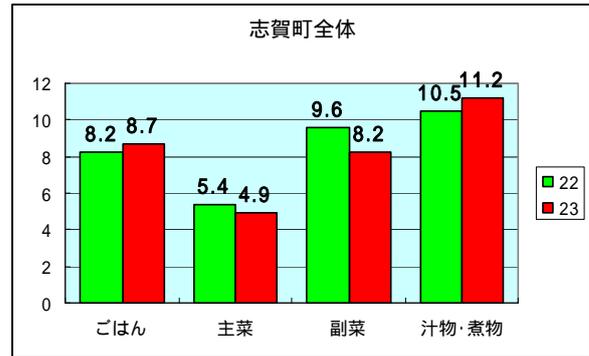


ミルクをつけた

3年生が残っていたことがわかる

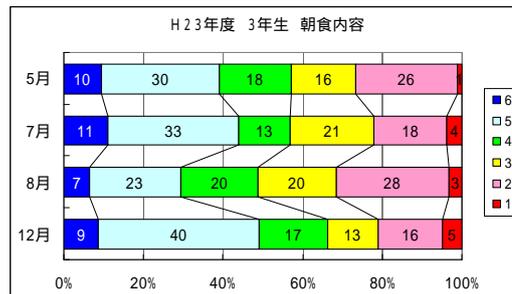
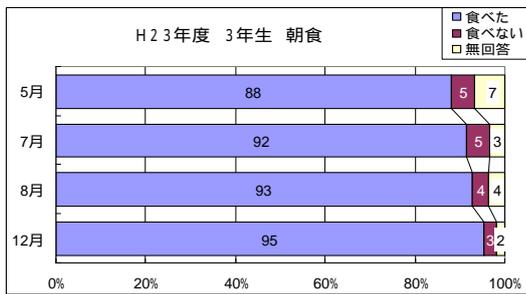
志賀町全体としても、主菜、副菜の減少にいった。主食が増えているのは、平成22年度に比較して、混ぜご飯の提供量を10%増やした影響と思われる。

汁物・煮物が増えているのは、今年度、新しいメニューのメギスの団子汁の登場回数を増やしたことによると思われる。

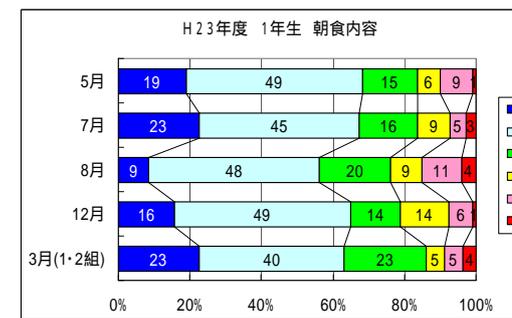
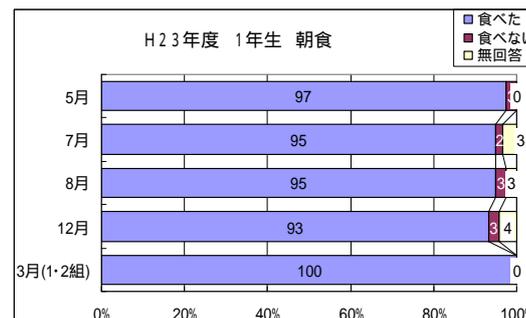
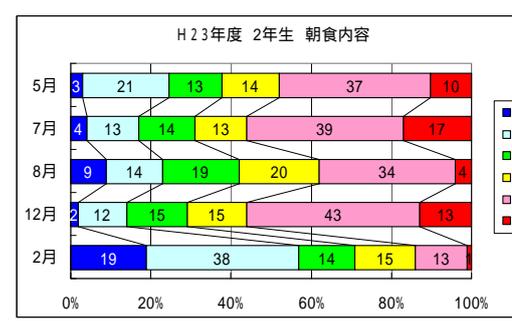
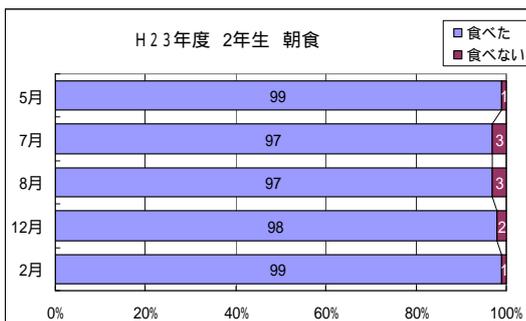


(2) 朝ごはん(実践中心校)

調査は、5回実施した。一回目の5月は給食委員会による調査、二回目は、全校集会後、三回目は夏休み中の健康調査時(養護教諭との連携)、四回目は、12月の全校集会後、五回目は、1・2年生の総合的な学習時間後に行った。繰り返しの指導と機会をとらえての実態から、徐々にではあるが、改善しつつある。



6 スペシャル
5 主食+副菜2品
4 主食+副菜
3 主食+汁物
2 主食だけ
1 その他



事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

(1) 食育年間指導計画の作成

実践中心校においては、食に関する指導を学校教育全体の中で推進していくため、各学年、各教科等すべての学習にわたって食育の観点から指導内容や学習活動の抽出を行い、年間指導計画を作成した。それによって、教職員の食に対する意識が高まり、食育指導を計画的に継続して実施することができた。

実践中心校以外の学校では、校長会への働きかけや町教育研究会学校給食部会の取り組みにより、町内全小中学校で共通した取り組みを進めることができ、各学校の教職員の協働体制が高まった。

(2) 児童・生徒の食に関する自己管理能力の向上

食に関する指導の実施後の調査から、意識の変容が見られ、残量の減少に至った。

(3) 学校・家庭・地域との連携

ア 学校との連携

食育年間指導計画の作成を町教育研究会で取り組み、給食部会の部員が各学校で中心となり、作成した。教職員全員が関わることにより、共通理解を得ることに繋がり、月毎指導計画に沿った取り組みを実施することができた。

給食時間における食に関する指導を実施するに当たり、年度当初の校長会で提案したことにより、各学校の年間計画の中に載せてもらえるようになった。栄養教諭・学校栄養職員の学校訪問により、7分間の短い時間であったが、教職員への事前の指導案の配布や、子供達の反応を還元したことは、教職員の関心を深める良い機会となり、食に関する指導に対する理解を得ることに繋がった。

給食時間に指導したことを、学校のホームページに掲載してもらったり、学級だよりでも取り上げられたりして、共同調理場、学校、家庭との連携にも繋がった。

また、すべての児童生徒と一年間に一度ではあるが、共有する時間を持つことができた。アンケート結果から、児童生徒の実態が把握でき、一人一人に向き合うことができた。

イ 家庭との連携

全小中学校で試食会が実施され、保護者と直接に触れ合う機会を得ることができた。

志賀中学校のPTA活動として、新一年生に「パワーアップ朝ごはん」の啓発資料の作成を行い配布した。この活動は、他の学校へも波及した。その結果、朝ごはんの内容の充実が認められるようになった。

今年度は、全児童生徒へ「骨・骨・貯めるコツ」の配布を行い、家庭での牛乳飲用の啓発を行った。

ウ 地域との連携

健康福祉課主催の「健康フェア」に参加したことは、試食会に参加したくても参加できなかった保護者の方や広く一般町民へ、学校給食に対しての理解と食の啓発を図ることができた。

全児童生徒に配布した「骨・骨・貯めるコツ」の啓発資料を、食生活改善協会、食育コーディネーターに作成を依頼したことは、地域の方との繋がりを持つことができ、食への関心を深めることに繋がった。

今後の課題（今回の事業により新たに見えた課題など）

(1) 食育指導の充実

食育推進年間計画は、給食時間と教科等の関連を明確にして、各領域の特性やねらいを踏まえるとともに、小中学校の関連を図りながら内容を見直し、継続的な指導ができるようにしていく必要がある。今年度の成果を町内の学校の食育指導の充実へと広めていきたい。

(2) 自己管理能力の向上

児童生徒の食に関する自己管理能力の更なる向上のために、給食時間における指導内容の定着の確認と、朝ごはんプログラムに沿った授業の実施を進めていきたい。

(3) 関連機関との連携

今年度は、「石川のおさかな給食モデル事業」「健康フェア」など新たな関連機関との連携を持つことができた。今後も継続し、さらに積極的に連携できる体制づくりを進めていきたい。